



かまがわ

第22号
2017.9

特集

病院長・副病院長座談会

「経営戦略プランに基づく 当院のあるべき姿」

基本理念

世界トップレベルの医療を地域へ

もくじ

1. 特集／病院長・副病院長座談会
「経営戦略プランに基づく当院のあるべき姿」
2. 診療科・中央部門紹介／医療安全管理部
3. トピックス／
 - ・世界初 生体内再生医療による重症先天性心疾患児の心臓手術成功
 - ・第23回夏季デフリンピックのチームドクターとして派遣
 - ・「後藤喜代子・ポールブルダリ科学賞」特別賞を受賞
4. 健康・予防の豆知識／
 - ・病気・栄養・くすり・臨床検査
5. 病院からのお知らせ

基本方針

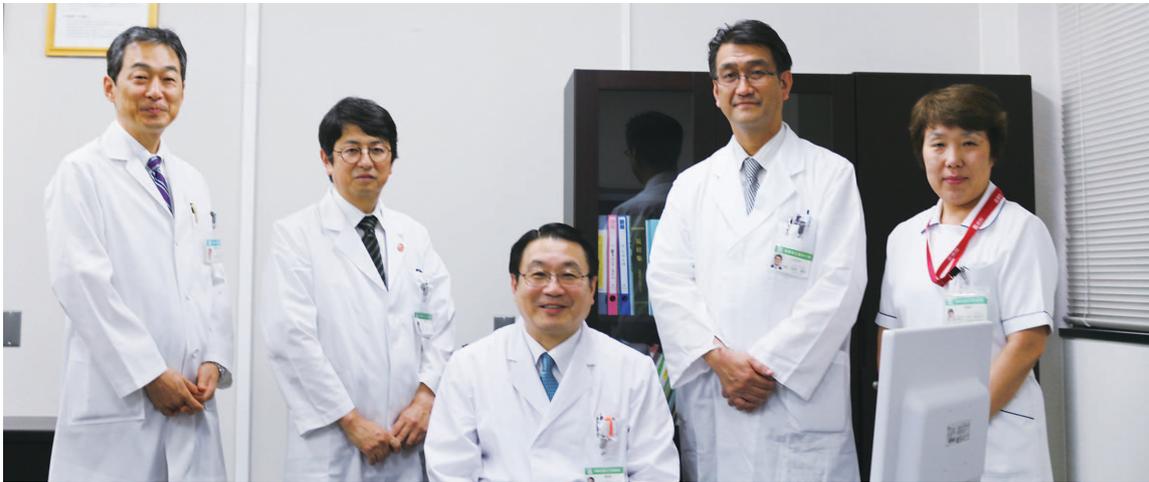
- 高度で安全な医療を提供します。
- 患者さんの権利を尊重し、患者さん本位の医療を提供します。
- すべての医療人は互いに連携し、チーム医療を推進します。
- 新しい医療を開発するとともに、未来を担う医療人を育成します。
- 京都府における基幹病院として、地域医療に貢献します。

患者さんの権利

- 個人として尊重され、平等に良質な医療を受けることができます。
- わかりやすい言葉や方法で、十分な説明を受けることができます。
- 医療に関する個人情報やプライバシーは、保護されます。
- 診療録等に記録された自己の診療内容について、情報提供を受けることができます。
- セカンドオピニオン（他の医療機関等の意見）を希望される場合は、紹介を受けることができます。

「経営戦略プランに基づく当院のあるべき姿」

当院では、今年度から「附属病院経営戦略プラン」を策定し、経営改革の実現に向けて新たな取り組みがスタートしました。そこで、北脇病院長、佐和副病院長、田尻副病院長、加藤副病院長、小城副病院長の新しい執行体制により「経営戦略プランに基づく当院のあるべき姿について」をテーマに話し合いましたので、その内容を紹介いたします。



左から、加藤副病院長、佐和副病院長、北脇病院長、田尻副病院長、小城副病院長

当院のあるべき姿について



北脇病院長

司 会：今年度、「附属病院経営戦略プラン*¹以下、プラン」を初めて策定しましたが、どのような考えのもとで作られたのでしょうか。

北脇病院長：これまでにも、当院には、「附属病院中期経営改善計画」がありましたが、計画期間が6年間と長期に渡り、やや具体性に欠ける部分もありました。そこで、短期的かつ明確に数値目標を設定し、診療報酬改定*²等により生じる新たな課題に機動的に対応していくため、新たなプランを策定しました。

司 会：当院がプランにある地域トップの高度急性期病院*³を目指すためには、何が重要になってくるのでしょうか。

佐和副病院長：病院経営のベースは、安心安全な医療の提供です。高度急性期病院として、安心して医療を受けていただけるよう、各種法令の改定に沿うようにしっかり院内の体制づくりを進めなければなりません。また、当院は手術が強い病院です。年間5,000件以上の手術を実施しており、手術室については、来年度には2室増やす予定ですので、さらに安全かつ効率的に運用できるよう努めていきたいと考えています。



佐和副病院長



田尻副病院長

司 会：経営改善担当として経営改善を進めていく上で、肝要な点は何でしょうか。

田尻副病院長：当院に求められる高度な医療をより多くの患者さんに提供することです。そのためには、医療機器や設備の充実が不可欠ですが、医療材料のコスト削減など、支出を減らす取組も併せて実施していきたいと考えています。また、当院での高度な医療を必要としている患者さんを治療し、症状が安定された後は、地域の医療機関で回復に向けた治療を行うなど、地域医療連携に取り組むことが経営改善にも重要だと思えます。

- * 1 附属病院経営戦略プラン：病院全体の理念、基本方針の下、「重点経営ビジョン」（病院経営のあるべき姿）や「経営戦略」（病院経営の展開方向）に基づき経営マネジメントの手法を用いて策定された経営戦略のプラン
- * 2 診療報酬改定：医療機関の診療サービスに対して支払われる報酬について隔年で行われる改定
- * 3 高度急性期病院：急性期の患者さんに対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する病院

司 会：プランにある紹介患者の増加や京都型地域連携*⁴の実現のために、どのように取り組まれるのでしょうか。

加藤副院長：紹介患者さんには、当院の受診予約をスムーズにお取りいただけるよう、また、外来患者さんには、受診の待ち時間を短くできるような新たな仕組みを検討しています。また、地域の医療機関と互いの長所を活かせるような制度が必要であり、それらと連携し、当院の高度な医療を地域に提供できるよう役割分担が出来ないか検討しています。



加藤副院長



小城副院長

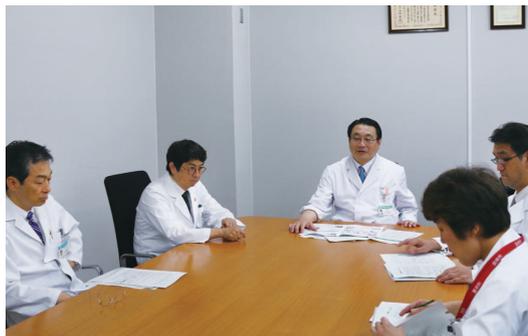
司 会：患者サービスの向上については、どのようにお考えでしょうか。

小城副院長：当院が実施している患者満足度調査では、多くの患者さんから高い満足度をいただいておりますが、継続するだけでなく結果を分析して、一つひとつの意見について整理し、対応できるものから取り組みたいと考えています。また、職員の満足度が高ければ、患者さんの満足度向上にもつながると考えていますので、新たに職員満足度調査も実施していきたいと思っております。

司 会：プラン実現のために、どのような点に特に力を入れたいとお考えでしょうか。

北脇病院長：医療安全については、人材を含めて強化が必要だと考えています。経営改善については、収入増加も必要ですが、経費削減にも重点的に取り組みたいと考えています。地域医療連携については、まだ改善余地があるため、さらに改革し、患者サービスについては、患者に寄り添う看護の実施を進めていきたいと考えています。他の難しい課題にも力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

加藤副院長：新専門医制度*⁵では大学病院が基幹病院になることが多いため、良い医療を提供するとともに、若手医師の教育にさらに力を入れたいと思っております。



田尻副院長：当制度では、大学病院が人材育成において重要な役割を担うため、専門医プログラムの中で計画的に地域に人材を派遣するなど、地域と一体となって取組を進める必要があります。

北脇病院長：永守記念最先端がん治療研究センター*⁶は、来年度には本格稼働予定であり、陽子線治療ができるようになれば、患者さんの選択肢は増えるので、それを活かせるような具体的な体制づくりを考えたいと思っております。

田尻副院長：陽子線治療を受けにきた患者さんに対して、その前後の高度な治療も実施できるような総合がん治療拠点としての充実も必要になると思います。

当院の今後について

司 会：最後に、当院を今後どのような病院にしたいかお聞かせください。

佐和副院長：当院の理念である「世界トップレベルの医療を地域へ」が実現できるよう、最新の医療機器と高度な医療安全体制を備えた病院にするため、永続的によりよい医療が提供できるよう体制づくりを進めていきたいと考えています。

田尻副院長：高度急性期医療の実現のために、救急医療に力を入れたいです。まず、夜間救急の充実を目指し、救急で受け入れた患者さんをどのような体制で治療し、地域の医療機関と連携していくかの仕組みづくりに取り組んでいきたいと思っております。

加藤副院長：よりよい医療を地域に提供できるよう、他の医療機関では、紹介元病院と紹介先病院がカルテや検査結果をICTで共有できるようになっているところもあるので、当院も、他の医療機関との情報の共有化に取り組み、地域医療連携を強めていきたいと考えています。

小城副院長：高度急性期病院として高度な医療を提供するに当たり、例えば6床部屋を4床にして、集中治療室などの病床数を増やすなど、病床機能を整えていきたいと思っております。

北脇病院長：当院は高度急性期病院として地域トップを目指します。そして、若い医師や看護師にとって魅力ある病院を目指すとともに、当院の特色である患者さんに寄り添った温かみのある医療の提供を続けていきたいと考えています。

* 4 京都型地域連携：京都府の地域医療構想に対応し、京都の地域に適した地域医療連携の取組

* 5 新専門医制度：専門医制度整備指針に基づき基幹研修施設等で、専門医の領域を基本領域（基本的な19の診療科）とサブスペシャリティ領域（細分化した領域）に区分して研修を行い、専門医の質の向上を目指す教育制度

* 6 永守記念最先端がん治療研究センター：京都府内で初めてのがん陽子線治療施設。現在、本年秋の竣工に向け、当院北側に建設中

医療安全管理部は、患者さんが安心、安全な医療を受けていただくために、間違いを誘発しない環境や事故を未然に防ぐことのできる病院全体のシステム作りに取り組んでいます。



院内をラウンドし、救急対応物品のチェックをしている様子

～日々の活動～

- ◎様々な職場で起こった医療安全に関する問題は、医療安全管理部まで報告されてきます。その問題の対応策を現場のリスクマネージャーと共に考えています。また、医療安全管理部の会議を定期的に行き、検討した内容は現場にフィードバックしています。
- ◎院内をラウンド（巡回）し、問題点がないかチェックをしています。
- ◎患者さんに、わかりやすい説明と同意がされているか定期的に点検をして改善に努めています。
- ◎院内研修を行い、職員の医療安全に対する知識と技術の向上に努めています。



リスクマネージャーが
つけているバッジです

安全に医療を行っていくためには、患者さんのご協力が必要です

- お名前はフルネームで伝えてください。
点滴や検査、診察の前などには、知っている職員であっても名乗ってください。
- 薬や造影剤、食べ物、ゴム製品などでアレルギーがある場合はお知らせください。
- 「あれ？」と思ったら遠慮なく職員に声をかけてください。
患者さんの「ちょっとまって」の一言で未然に防げることもあります。
- 転ばないために、入院中の履物は、かかどがある履物、特にゴム底の運動靴等がおすすめです。
- 納得できないことや理解しづらいことは遠慮せずに医療者に質問してください。



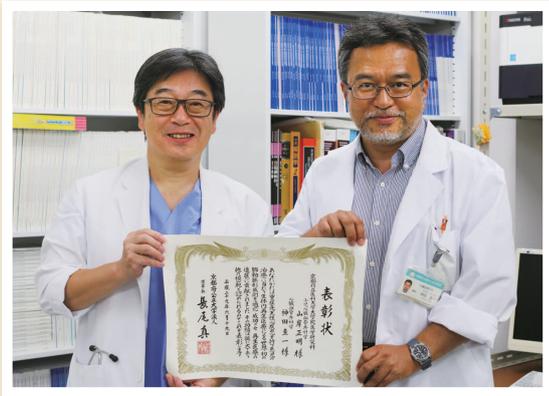
医療安全管理部スタッフ



私たちは、皆様と一緒に
安心、安全な医療を
目指していきます



世界初 生体内再生医療による重症先天性心疾患児の心臓手術成功



左から、山岸病院教授、神田講師

極めて治療が困難な重症先天性心疾患を持つ2歳の女児に対し、生体内再生医療による世界初の肺動脈形成術を適応・成功しました。(報道発表：平成28年11月)

この技術は小児心臓血管分野において画期的かつ大変有用な先進医療技術であり、その功績を称え、小児心臓血管外科 山岸病院教授、心臓血管外科 神田講師が京都府立大学法人教職員表彰を受賞しました。



第23回夏季デフリンピックのチームドクターとして派遣

4年に1度、世界規模で行われる聴覚障害者のための総合スポーツ競技大会「夏季デフリンピック」が7月にトルコのサムスンで開催され、脳神経外科 笹島病院教授が大会のチームドクターとして派遣されました。

大会中は、チームの一員として選手の健康管理やケガの治療、英語通訳などにあたりました。

また、当院からも医薬品を提供するなど選手の支援に取り組みました。



左から2人目、笹島病院教授



「後藤喜代子・ポールブルダリ科学賞」特別賞を受賞



がん(とりわけ、肺がん)撲滅^{ぼくめつ}に寄与した基礎医学及び臨床医学に関する優秀な学術論文を顕彰^{けんしょう}する「第5回後藤喜代子・ポールブルダリ科学賞」の表彰式が5月24日に行われ、呼吸器内科 高山教授が特別賞に選ばれました。

高山教授は、がん患者さんの多くが、食欲不振になることに対して、低分子化合物のアナモレリンが患者さんの食欲増進に効果を発揮することを明らかにしました。

健康・予防の豆知識

病気の豆知識

第8回 季節性うつ病とは？

1年のうち特定の時期（主に秋か冬）にうつ状態になることがあり、季節性うつ病と呼ばれています。季節性うつ病では、疲れやすさ、気分の落ち込みなどの症状に加えて、過食、体重増加、過眠などの症状がでることもあります。

治療にはうつ病と同様にお薬による治療や精神療法が行われますが、光療法や日光浴が有効な場合があります。光療法とは、午前中に5000ルクス（曇りの日の屋外の明るさに相当）以上の光を照射する治療です。

秋や冬などに疲れやすくなったり、起きるのがつらくなったり、食欲が増えるようなら季節性うつ病の可能性もありますので、日中はカーテンを開けて部屋を明るくしたり、外出して太陽の光を浴びるよう心掛けて下さい。

それでも症状が改善しないようなら精神科・心療内科を受診して下さい。



栄養の豆知識

栄養管理部 連載企画

第7回 肥満を予防する食習慣の話

最近、お腹周りが気になる、体重が増えたと感じる人はいませんか。そのままにすると、肥満から高血圧や糖尿病といった生活習慣病になるおそれがあります。正しい食習慣を身につけて、肥満を予防しましょう。

①タイミング

朝食を抜いたり、まとめ食いをしたりすると、一度に栄養を吸収しようとしてかえって太りやすくなります。1日3食を規則正しく食べましょう。

②食べ方

早食いせず、ゆっくりよく噛んで食べましょう。
噛むことで満腹感が得られ、食べ過ぎを防ぐ効果があります。

③食べ物の選択

コンビニ弁当や外食のように炭水化物、脂肪が多い食事を摂ることが多い方は、食物繊維が豊富な野菜や海草、きのこなども一緒に食べて、食べ過ぎを防ぎましょう。





くすりの豆知識

薬剤部 連載企画

第18回 抗菌薬が効かない「薬剤耐性 (AMR)」が拡大！



ペニシリンを発見したアレキサンダー・フレミングは、ノーベル医学生理学賞受賞講演で、次のように述べています。

「ペニシリンが商店で誰でも買うことができる時代が来るかもしれない。そのとき、無知な人が必要量以下の用量で内服して、体内の微生物に非致死量の薬剤を曝露させることで、薬剤耐性菌を生み出してしまう恐れがある」

今、世界中で抗菌薬の効かない細菌（耐性菌）が増えています。

耐性菌が増えると、抗菌薬が効かなくなることから、抗菌薬が無かった時代へと戻ってしまうことが懸念されています。

現在、世界中で AMR（薬剤耐性）に対する取り組みが始まっています。薬剤耐性の拡大を防ぐために、私たち一人ひとりにできることがあります。

抗菌薬を服用する際は、医師や薬剤師の指示を守って、必要な場合に、適切な量を適切な期間、服用しましょう。



政府も「あなたのリスク ほどよいクスリ」をキャッチフレーズに、薬剤耐性の拡大防止に取り組んでいます。

「政府広報オンライン」 <http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201611/2.html> より一部転載。



臨床検査の豆知識

臨床検査部 連載企画

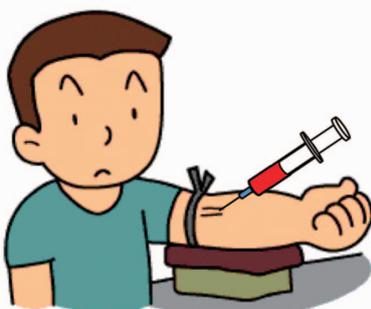
第13回 自分の体の血液量と検査の採血量は？



成人の血液の量は、体重の約 13 分の 1（男性では約 8%、女性では約 7%）です。通常の採血検査では全血液量の 1% にも満たない量を採血します。

医師の検査依頼により、検査項目に適した採血管を準備して採血します。

体重	全血液量
40Kg	2800 ~ 3200mL
50Kg	3500 ~ 4000mL
60Kg	4200 ~ 4800mL
70Kg	4900 ~ 5600mL



採血管の種類	採血量	主な検査項目
	2mL	赤血球、白血球数、ヘモグロビン 等
	2mL	血糖、グリコヘモグロビン (HbA1c)
	5mL	肝機能検査、腎機能検査 等

病院からのお知らせ

(1) イベント・講座等開催予定

事 項	開催日時	内 容	申し込み先・問合せ先	
1 ひだまりサロン ①「もしも、がんと言われたら」 —あなたとご家族が心がけておきたいこと— ②「新しいがん免疫療法」 ③「がん患者の就労支援について」 —仕事をやめないうちに— ひだまりサロン For Kids ④「長期フォローアップについて」	① 9月6日(水) 13:30~14:30 ② 11月8日(水) 13:30~14:30 ③ 12月6日(水) 13:30~14:30 ④ 10月5日(木) 10:30~11:30	患者さんやご家族が体験を語り合い、情報を交換する場です。 講師：①がん相談支援センター がん専門相談員 ②消化器内科 石川 剛 医師 ③京都産業保健総合支援センター 両立支援促進員 ④小児科 宮地 充 医師	がん相談支援センター TEL: 075-251-5283	
			事前申込	申込期間
			直前まで受け付け	電話
			定 員	料 金
			20名	無料
2 ①近視進行予防トライアル説明会 ②近視矯正手術 LASIK 説明会 ③第2回眼科市民講座「角膜、眼形成」	10月28日(土) ① 13:00~13:30 ② 13:30~14:00 ③ 14:00~16:00	①小学生を対象にした近視進行予防(多焦点コンタクトレンズ)の臨床研究説明会です。近視進行予防にご興味のある小学生多数の参加をお待ちしています。 ②近視手術レーザー普及のため、眼科学教室が開催している一般市民向け公開講座 ③患者さんへの情報提供のため年4回眼科が開催している一般市民向け公開講座。今回のテーマは「角膜・眼形成」	眼科学教室 TEL: 075-251-5578	
			事前申込	申込期間
			なし	当日受付
			定 員	料 金
			150名	無料
3 第45回日本潰瘍学会 市民公開講座	11月19日(日) 14:00~15:30	司会:鈴木秀和(慶應義塾大学)、佐々木誠人(愛知医科大学) ①「基礎から学ぼう、胃潰瘍・胃癌とヒロリ菌」 半田 修(京都府立医科大学消化器内科) ②「基礎から学ぼう、潰瘍性大腸炎」 内山和彦(京都府立医科大学消化器内科)	消化器内科 FAX: 075-251-5650	
			事前申込	申込期間
			なし	当日受付
			定 員	料 金
			250名	無料
4 ①京都府立医科大学公開講座(看護学科) 「日常の健康管理に生かす看護技術—そうだったのがバイタルサイン測定(血圧、脈拍、体温)と感染予防の方法—」 ②京都府立医科大学公開講座(医学科) 「がんへのあたらしい治療法」	① 10月14日(土) 13:30~15:30 ② 12月17日(日) 13:30~16:00	①日ごとの健康管理の向上を目指して、バイタルサイン(血圧・脈・体温)の測定と感染予防の方法(手洗い・マスク着用)について、わかりやすく適切な方法をお話しします。また、実際に体験できる時間も設けます。 ・手話通訳・要約筆記:有(要予約) ・保育ルーム:有(要予約) ②本学教員によるがんへのあたらしい治療法に関する講演 ・手話通訳・要約筆記:有(要予約) ・保育ルーム:有(要予約)	総務課総務担当 住所:下記(附属病院の住所)のとおり TEL: 075-251-5210 FAX: 075-211-7093 Eメール: learning@koto.kpu-m.ac.jp	
			事前申込	申込期間
			① 10月4日まで ② 12月7日まで	FAX はがき Eメール (先着順)
			定 員	料 金
			① 40名 ② 300名	無料
5 第25回歯の健康講座	10月14日(土) 受付: 13:30~ 講演: 14:00~15:00	・講演「ドライマウスと口腔環境について」 ・講師 正文浩(京都市上京区歯科医師会) ・歯周病チェック(講演終了後、希望者のみ) ・相談コーナー ・歯ブラシ等の清掃グッズの展示	歯科 TEL: 075-251-5043 FAX: 075-251-5045	
			事前申込	申込期間
			なし	当日受付
			定 員	料 金
			100名	無料

(2) その他のお知らせ

事 項	開催日時	内 容	問合せ先
1 ハローワーク京都西陣による出張相談のご案内	毎月第一水曜日、第三金曜日 10:00~12:00 (完全予約制)	がん治療を続けながら働きたいという方へ仕事に関する悩みをハローワーク京都西陣の専門相談員が、皆様のご相談に応じます。 ご相談希望の方は、がん相談支援センターにお問い合わせください。	がん相談支援センター 電話: 075-251-5283
2 肝疾患相談センターのご案内	・毎週火曜日及び木曜日 10:00~12:00 13:00~16:00 ・毎週水曜日 13:00~16:00	肝疾患患者さんやそのご家族をはじめ、肝疾患に関する不安や疑問を持つ方からの様々なご相談をお受けしています。 当院消化器内科の担当者が相談に応じ、患者さんやご家族等の皆さんの精神的負担の軽減を図ります。(相談無料)	肝疾患相談センター 電話: 075-251-5171

京都府立医大病院 オープンホスピタル2017

日時: 9月18日(月・祝)
午前10時~午後4時
場所: 当院外来棟など

入場無料

救急車見学 (写真は昨年開催時のものです)



フレフレちゃん



薬剤師体験



健康相談コーナー

休 診 日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)

初診受付時間 午前8時45分から午前11時まで
※再診受付時間は、各診療科にお問い合わせください。
敷地内は全面禁煙としております。ご理解とご協力をお願いします。

次 回
平成30年1月
発行予定



京都府立医科大学附属病院

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
電話: 075-251-5111 (代表)
HP: <http://www.h.kpu-m.ac.jp>